

教育スタッフの

「仕事」日誌



Season 19

NTT テクノクロス
人事部
人材開発部門

原田成章

11月

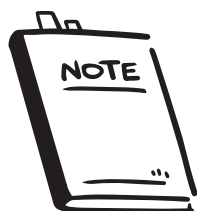
越境学習を通じた人材育成の取り組み

近年、市場競争の激化や技術革新の加速、顧客ニーズの多様化が進み、企業を取り巻く環境はますます複雑化しています。こうした状況で企業が持続的な成長を目指すには、従来の枠組みにとられない柔軟な発想と新たな事業の創出が求められています。

新規ビジネス創出に向けた人材育成には、「試行錯誤や失敗を恐れず挑戦する姿勢」「当事者意識」「多様な人々との交わりを通じて自分の固定観念を再構成する意識」といったマインドセットが不可欠と考えます。そこで当社では、新たな人材育成の取り組みとして、業種や職種の垣根を越えて交流し合う「越境学習プログラムへの派遣」を、2023年度より実施しています。

越境学習とは

越境学習とは、ホーム（以心伝心を通じる、よく知った仲間がいる居心地のよい、慣れた場所）と、アウェイ（個人にとって必ずしも居心地がよいとは限らず、慣れない場所。普段使う言葉やルールが通じず、見知らぬ人がいる環境）を行き来することで得られる学びのプロセスを指します（『越境学習入門』、日本能率協会マネジメントセンターか



ら引用）。

越境学習プログラムは、あえてアウェイの環境を体験することを通じて学びを深めます。

職種や年齢、業界が異なる多様な参加者が集まり、上下関係なく自由に議論を交わすなかで、参加者はホームでは通じていた常識がアウェイでは必ずしもあたり前ではないことに気づきます。そうした経験が、新たな視点の獲得や行動変容を促進します。

当社では、こうした他業界の人材と普段とは異なる業務に挑戦する経験が、マインド醸成や視野の拡大、外部の人脈形成につながると考え、プログラムへの派遣を決めました。

越境学習プログラム

2023年および2024年に実施された越境学習プログラム（他社主催）には、当社からは、20代から30代のシステム開発部門および営業部門の社員が参加しました。参加者は、異業種・異職種のメンバー4人でチームを組み、3カ月間にわたり地域社会の課題解決に取り組みました。

具体的には、参加チームは上下関係のないフラットな環境のもと、現地での情報収集から課題の整理、そして自治体への具体的な提案作成まで行いました。現地での活動は延べ6日間に限定され

ており、それ以外の期間は、オンラインでの打ち合わせや調査を主体的に進めていきました。使用するコミュニケーションツールや進行方法はチームごとに異なり、メンバー自らが役割分担やスケジュール管理を行うなど、高い自主性が求められました。

さらに、プログラムの中盤では、自治体関係者を交えた中間発表が行われ、実際のフィードバックを受けて提案内容の見直しや改善を図る機会がありました。こうしたリアルな環境での試行錯誤を通じて、参加者は最終提案まで責任をもってやり遂げることができ、非常に貴重な学びと成長の場となりました。

効果と参加者の声

この研修を通じて、異なる業種や背景をもつ多様なメンバーと共に課題に取り組む環境が整えられ、参加者の成長が促進されました。共創に必要なコミュニケーションの難しさと重要性が理解され、参加者自身の固定観念が見直されたり、視野・視座が拡大する機会となりました。

●参加者の声

- ・ 普段使っている専門用語が通じないだけではなく、考え方のアプローチも業種ごと異なることに気づいた
- ・ 異なる相手の意見を理解しつつ、建設的な議論を進めるスキルや姿勢が必要だと感じた
- ・ 正解のない課題に対して、解決策をゼロベースで発想する難しさを実感した
- ・ SE として技術面での解決を優先しがちだが、潜在的課題解決にはビジネスや顧客視点が必要

だと感じた

- ・ 自身の発言がきっかけでチームのアイデアが広がる経験ができた



今回の越境学習プログ

ラムに関する参加者の振

る舞いを踏まえると、上下関係や役割にとらわれない環境のなかで自身の意見を積極的に発信することが「当事者意識」の向上につながり、正解のない課題に取り組む経験は「試行錯誤や失敗を恐れず挑戦する姿勢」の形成に効果があったと考えられます。また、異業種・異職種のメンバーとの関わり（議論・コミュニケーション・共創）は、「多様な人々との交わりを通じて、自分の固定観念を再構成する意識」のきっかけとなり、価値創造の土壌を整えるために不可欠な「自分をアップデートしていく」というマインドの醸成がみられました。

なお、私自身、運営として携わって印象に残ったのは、プログラム終了後の振り返りの場にて、一人ひとりがまったく異なる気づき・広がりを得ていたことです。その姿に触れることで、私自身も「学びは一樣ではなく、多様であるからこそ価値がある」とあらためて気づかされました。

今後も越境学習や他社交流の機会をもち、こうしたマインドの土壌をさらに強化していきます。また、その土壌をつくったうえで、ビジネス知識（形式知）や実践経験（実践知）を体系的に習得できる環境づくりを一層進め、知識・経験の両面からの支援を組み合わせ、新規ビジネス創出に向けた人材育成をしていきたいと考えています。 ■